

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

No1778 続報 前兆変動関係再考 7/18以降前兆継続の場合は 8/7±3 可能性か？

No1778長期継続前兆につきましては、7/23±3 発生の可能性を考えておりました。

この場合、誤差があってもここ一両日中には前兆変動が終息する可能性が計算されています。

しかし、現在継続出現中の以下の前兆変動

- CH07特異 (八ヶ岳)
- CH15特異 (八ヶ岳)
- CH26PBF (八ヶ岳)
- CH26火山 (八ヶ岳)

はCH26火山(噴火型・火山近傍地震型)以外(現時刻までには出現無し)は本日現段階でも明確に継続出現しております。

ここ一両日中に上記の前兆変動が終息した場合は図1の関係が正しいこととなりますが、7/18以降も前兆変動が継続出現した場合は、図2の関係も考えられます。

発生推定時期は、早い場合の可能性を考慮して前兆関係を観ています。このため、推定された前兆変動終息時期に終息しない場合は前兆関係の見直し再考を余儀なくされています。

図2の場合は、以前に報告致しました7/7出現の八ヶ岳のCH04の弱い特異変動を直前特異ではなく、ここまで前兆期間で、7/8以降 Tpp(静穏期)に入った可能性として考えました。従って、幾つかの観測装置の変動が終息していますが、まだ4/21.1極大に対する終息以外、他の極大に対しては静穏期に入っていない認識となります。7/18以前に前兆変動が終息した場合は即刻続報を出しますが、続報が無い場合は、7/18以降も前兆変動が継続し、次の早い場合の可能性としては図2に示す 8/7±3 時期が考えやすいとご理解下さい。その後の変化を鑑み、発生時期推定に努めます。図2の関係も正しいか否かはまだ不明です。発生がより先となる可能性も否定はできませんので、変化を鑑み検討を続けます。

図1

No3427=No1778の別形態多段階前兆変動

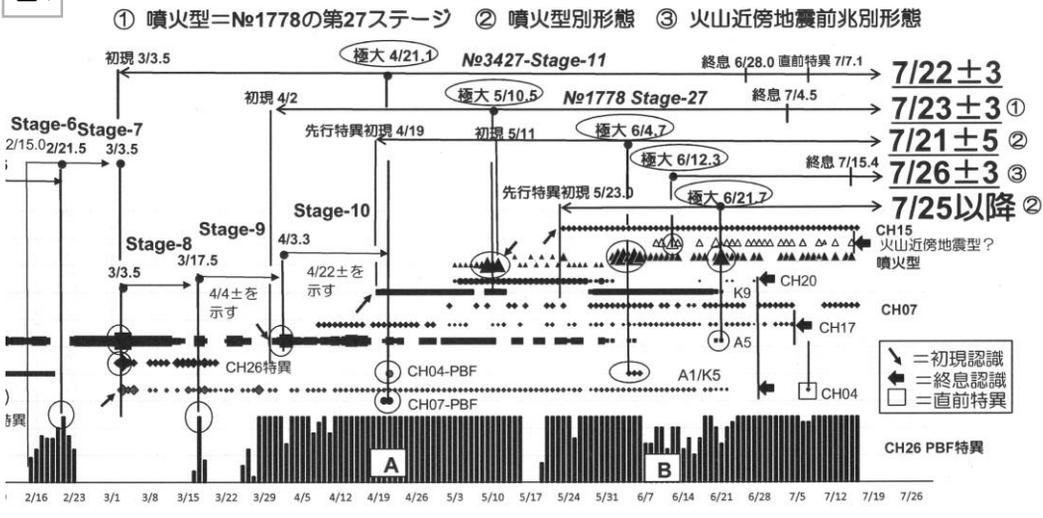


図2

No3427=No1778の別形態多段階前兆変動

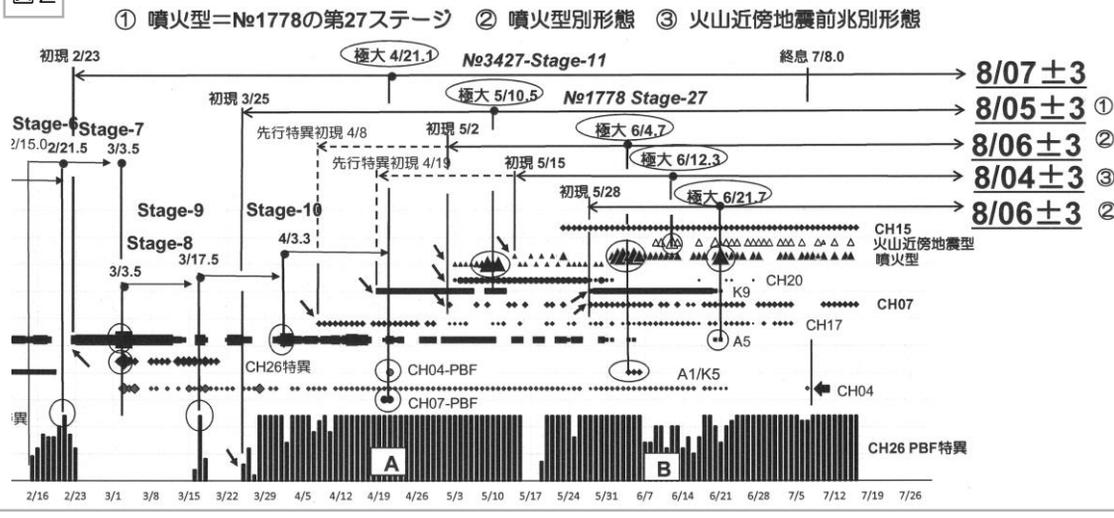


図3



- 推定領域：図3の太線枠内・火山近傍
- 推定規模：単発では M8.0±0.3 複合 M7.4+M7.3等
- 推定地震種：震源浅い陸域地殻
- 推定発生時刻：午前9時±2 or 午後6時±3